

最終レポート

山本イリーナ

時系列で写真を整理している間、岡山に到着したその日から今までのことを思い出し、月日が過ぎるのはなんて早いのかと信じられない気持ちになった。伊原さんや真由美さんと初めて会った日がつい最近のここのように感じるのに、それはもう4ヶ月も前のことなのだ！

今回の滞在で、私は社会福祉のことだけではなく、そう、想像よりはるかにたくさんのことを学ぶことができた。

(写真キャプション：このフレームを作成。今後の活動で活用してほしい。)

研修の最初の月から、私はアムダに受け入れてもらえて本当に幸運だったと感じていた。そこでは自然災害、防災、応急手当、救援活動とその準備、高齢者や四肢障害者のサポートについて多くのことを学ぶことができた。

研修の当初、私はアムダの歴史について学んだ。そこで私が注目したのは「相互扶助」という言葉である。単に言葉の意味で言えば「お互いを助けること」であるが、ご承知の通り「今日は人の身、明日は我が身」という意味がある。この考え方はアムダだけではなく、日本社会に一般的にみられる。私は来日前、常に「歴史的に被ってきた数々の災害（自然災害であれ、人災であれ）にも関わらず、日本は今日のような国にどのように成長することができたのか？」と自分の中で問い続けてきたが、驚くべきことにこの「相互扶助」という言葉の中にその答えの一片があることに気づいた。神戸の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」や広島市の「平和記念資料館」への訪問も、このことを理解するために興味深いものだった。

研修の初め、私はアムダ中学高校生会に参加した。会議の準備、黒潮町での宿泊研修のようなよき思い出もたくさんできたが、言葉も文化も超えて互いにコミュニケーションをとるために努力したことが何よりも大切となった。私たちはともに豊かな時間を過ごし、これからもきっと関りを持ち続けるであろう。

(写真キャプション：アルゼンチンで起こった地震についての発表をする私)

黒潮町での活動を機に、防災や応急処置について多くを学んだが、最も心を掴んだのは私の国、アルゼンチンの災害に関する気づきだった。アルゼンチンには災害がない、というのが私の国での共通認識であるが、今回アルゼンチンの災害について発表するように頼まれた。人生で初めてそのことについて調べた結果、もっともひどい災害が地震であったことを思いがけず発見した。私は思った。「アルゼンチンでも地震が起こるかもしれないの

に、なぜ誰も防災について知らない？緊急事態にどうしたらよいか、なぜ関係機関も私たちに教えようとしらない？」と。私はアルゼンチンの自然災害の全容を知らないの、国に帰ったら、私の疑念を晴らしてくれるあらゆる機関に出向こうと思う。

日本に到着したばかりの頃、日本社会の町の様子によく注目していた。注目したのは、たくさんの障害を持つ人々が自立して社会に存在することだった。時がたつにつれて、例えばエレベーターの低い位置にあるボタン、たくさんの歩道にある黄色の視覚障害者誘導用ブロックなどのようにまちの至る所に障がい者のための設備があることを発見し、概して日本社会は障がい者の生活の向上について善処していると思った。研修を通して旭川荘を訪れる機会があったが、そこは私の予想をはるかに上回る施設だった。旭川荘は社会福祉法人であり、子どもの養育園、乳児院、ティーボールの練習、障がい者が働いて収入を得ることができる工場、いくつかの介護施設、高齢者のデイケアセンターなど、私が訪問したような発達に障害のある人のための医療施設として機能している。施設は障がい者が暮らしやすく心地よいように設計されており、何よりもスタッフが、一般的なことを可能な限りできるよう、障がい者が自分でできる以上のことをしやすいようサポートするのだ。

私は旭川荘のスタッフが私をサポートし、可能な限り私が学べるように努力した姿に「相互扶助」をまた感じた。アルゼンチンに帰ってから彼らに感謝の意を表すためには、彼らが教えてくれたように私も誰かをサポートすることだと思う。

家族や友人とこんなに長く離れるのは今回が初めてのことであった。もちろん来日前私は怖かったし、数々の不安があった。しかし4か月間を日本で過ごした今振り返ってみると、私は人格的に成長したと感じ、素晴らしい経験をしたと思う。研修以外のことで言うと、広島、徳島、神戸、東京などたくさんの場所に行くことができ、それぞれ様々な特色があり、その地域を魅力的にしていた。岡山の場合、おいしいモモやブドウは別として、その地域の特色を形成しているのは、人だ。日本のほかの地域と比較してみても、この人々は優しく私を歓迎してくれて、友達になった人だけではなく、お店の店員、タクシーや電車の運転手、単に道端にいる人でさえ、何かあればいつでも助けるつもりでいてくれて、私にとってびっくりすることであり有難いことだった。

(写真キャプション：アムダの近くのスーパーの店員。いつも笑顔で迎えてくれた。会えなくなるのがさみしい。)

今回の研修のおかげで素晴らしい出会いがあった。まずは私の親戚だ。私の祖母の兄弟姉妹とその子や孫たちが、ご馳走を作って迎えてくれた。以前は彼らと交流したことがなかったのに、私は彼らにとっても親しみを覚え、説明のつかない驚きを感じた。今や研修のおかげで岡山の親戚と連絡を取り合うよう仲になれたことは私の旅のなかでも重要なこと

である。

(写真キャプション：岡山の親戚。天国の祖母は喜んでいると思う。)

アムダでの研修を通じてたくさんの友達ができ、彼らはいつもとてもやさしかった。彼らの忍耐のおかげで私はたくさんの学びを得た。また、このような短期間でなぜこんなに大切な存在になったのかわからないが、私のサポートやお世話をしてくれる様子や、アムダに関係ないことでさえも私がやりたいことを全てできるように配慮してくれて、私はアムダにいと大切にされていると感じて幸せな気持ちになったので、私はいつも感謝の気持ちでいっぱいになると思う。

(写真キャプション：パートナーのみんなと。プライベートでいろいろなことをして、楽しい時間をすごした。)

岡山が素敵な所であること、ここには素晴らしい人々がいることを胸に刻み、私は今、アルゼンチンに帰ろうとしている。ここにルーツを持つことにほこりを感じる。

私はこの先この経験に感謝するであろう。